

山形県で回収されたアライグマ (*Procyon lotor*)

轢死体から見出された鉤頭虫類

鈴木夏海¹⁾・中澤美菜¹⁾・福江佑子²⁾・山下國廣²⁾・浅川満彦^{1)*}

Acanthocephalans from *Procyon lotor* in Yamagata Pref., Japan. Natsumi SUZUKI¹⁾, Mina NAKAZAWA¹⁾, Yuko FUKUE²⁾, Kunihiro YAMASHITA²⁾ and Mitsuhiko ASAKAWA¹⁾. *Journal of the Natural History of Aomori*, (26) : 1-2, 2021

Key words: アライグマ, 鉤頭虫類, 東北地方初記録

はじめに

外来種アライグマ *Procyon lotor* が国内で普通に生息しているため、公衆衛生的に問題視されるアライグマ回虫 *Baylisascaris procyonis* を主眼に置いた蠕虫保有状況の調査が北海道、関東、中部、近畿および九州の各地方で野外に生息するこの動物を対象に実施された(浅川ら, 1999; 中澤ら, 2019; Matoba et al., 2006; 三根ら, 2010; Sato and Suzuki, 2006; Sato et al., 2005)。幸い、いずれの地域でもこの回虫は得られなかったが、当然ながら、この陰性結果は不在証明を示すものではないので、たとえば、機会があれば、以上の地方以外の産地の材料を用い、継続的調査をすることが望ましい。

2010年度以降、東北地方では青森県西部、宮城県仙台平野から福島県浜通など新たな分布域が確認され、当該各地での確認メッシュ数も急増しているにも関わらず(環境省, 2013, 2018; 山形県, 2019, 2020)、他地方に比べ調査の実績は乏しい。これを反映したため、東北地方におけるアライグマの蠕虫保有状況も未知のままであった。今回、山形県内で交通事故個体として回収されたアライグマ(山形新聞, 2013)の消化管を検査する機会を得たので報告をする。

材料と方法

2019年6月10日、山形県鶴岡市上名川の赤川傍を走る道路で交通事故個体と考えられるアライグマ1個体(オス, 7.4kg, 2歳)が回収され、鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」で冷凍保管された後、その死体が冷凍状態でNPO法人生物多様性研究所あーすわーむに送付され、同団体にて解剖サンプリングされた。その際得られた頭骨、陰茎骨、犬歯切片、筋肉およびフラツスキンの各標本は、鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」に保管されたが、食道から直腸までの消化管は-20°Cで冷凍された。この冷凍材料は前述の生物多様性研究所から、酪農学園大学

野生動物医学センター WAMC に送付された。材料は WAMC にて自然解凍され、実体顕微鏡下で精査し、蠕虫類を採集した。採集された蠕虫類は 70% エタノールで固定・保存後、ラクトフェノール液により透徹し、実体顕微鏡および光学顕微鏡に顕微鏡描画装置 (OLYMPUSBH2-DH) を装着し形態観察を行った。観察後、これら標本は WAMC にて登録された (AS 17834-1 および 2)。

結果と考察

得られた材料を検査した結果、小腸から植物の種子類と昆虫類(未同定)とともに蠕虫類 13 虫体が検出された。蠕虫類はそれら概形から鉤頭虫類のおそらく嚢から脱出して間もない幼虫 *cystacanth* であった。しかし、成虫ではなかったことから、種レベルの同定は困難であったが、うち 10 個体が体長 3.5mm、吻上の鉤の配列 (23x24) から *Southwellina* 属に(図 1-1)、一方、残り 3 個体は全長 1.7mm、吻上の鉤の配列 (17x31) から *Sphaerirostris* 属の特徴にそれぞれ合致した(図 1-2)。

これら鉤頭虫類は国内のアライグマからは頻りに検出され、かつ、鳥類や他の哺乳類からの記録はあった(中澤ら, 2019; Matoba et al., 2006; 三根ら, 2010; Sato and Suzuki, 2006; Sato et al., 2005)。しかし、東北地方に生息するアライグマの蠕虫検査の前例は無かったので、以上の検出事例は初記録となった。なお、この検査ではアライグマ回虫を含む他蠕虫類は得られなかったが、調べたのは 1 個体のみであり、今後の材料蓄積に期待したい。

謝辞

消化管材料をご提供頂いた鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の上山剛司氏およびアライグマの齢査定の情報をご教示頂いた山形県庁獣医師の的場洋平博士に深謝する。

1) 酪農学園大学 獣医学群 獣医学類
2) NPO 法人 生物多様性研究所あーすわーむ
* asakam@rakuno.ac.jp

〒 069-8501 北海道江別市文京台緑町 582 番地
〒 389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分 1549-3-1

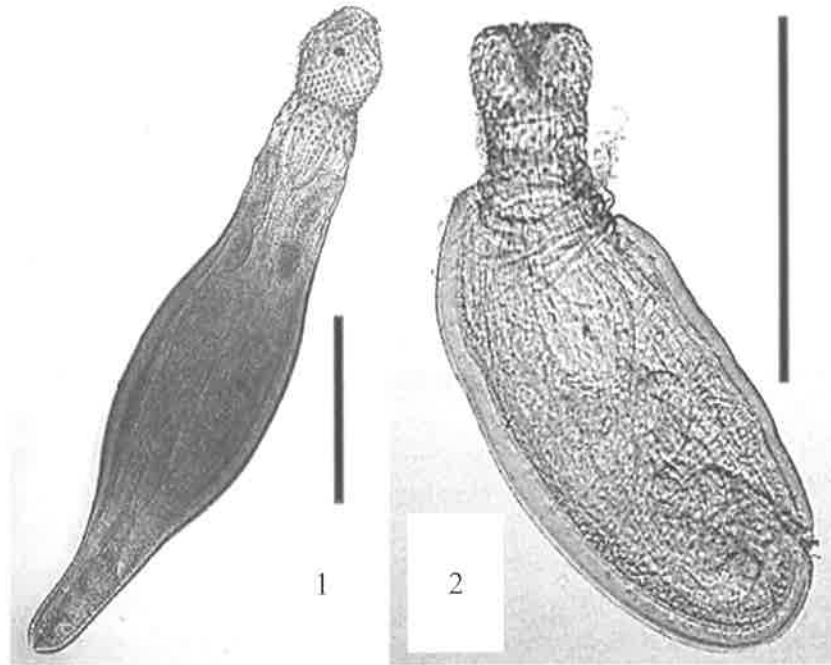


図 1. 山形産アライグマから検出された鉤頭虫類
(-1: *Southwellina* sp., -2: *Sphaerirostris* sp.). 図中スケールは 1 mm

引用文献

浅川満彦・倉地 徹・酪農学園大学野生動物生態研究会 (1999) 北海道産アライグマの寄生蠕虫類.

日本野生動物医学会誌, 4: 101-103.

環境省 (2013) 東北地方の外来生物. 東北地方環境事務所, 8 pp.

https://tohoku.env.go.jp/wildlife/mat/data/m_2/m_2_4.pdf (最終閲覧 2020 年 6 月 21 日)

環境省 (2018) 平成 29 年度要注意鳥獣 (クマ等) 生息分布調査—調査報告書—アライグマ・ハクビシン・ヌートリア. 環境省自然環境局生物多様性センター, 108 pp.

https://www.biodic.go.jp/youchui/reports/h29_youchui_houkoku.pdf (最終閲覧 2020 年 6 月 21 日)

中澤美菜・谷口 萌・長濱理生子・竹内萌香・田中祥菜・瓜田千帆子・西川清文・橋本幸江・牛込直人・上田晴香・角野敬行・的場洋平・福江佑子・黒江美紗子・浅川満彦 (2019) 長野県内で捕獲されたアライグマ *Procyon lotor* とアメリカミンク *Neovison vison* の寄生蠕虫類保有状況—2002 年から 2018 年までの結果概要. 環境保全研究所研究報告, 15: 93-27.

Matoba, Y., Yamada, D., Asano, M., Oku, Y., Kitaura, K., Yagi, K., Tenora, F. and Asakawa, M. (2006) Parasitic helminths from feral raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. *Helminthologia*, 43: 139-146.

三根 恵・松本 淳・加藤卓也・羽山伸一・野上貞雄 (2010) 神奈川県三浦半島に生息するアライグマ

の消化管内寄生蠕虫相に関する研究. 日本野生動物医学会誌, 15: 101-104.

Sato, H. and Suzuki, K. (2006) Gastrointestinal helminths of feral raccoons (*Procyon lotor*) in Wakayama Prefecture, Japan. *J. Vet. Med. Sci.*, 92: 311-318.

Sato, H., Suzuki, K., Uni, S. and Kamiya, H. (2005) Recovery of the everted cystacanth of seven acanthocephalan species of birds from feral raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. *J. Vet. Med. Sci.*, 91: 1203-1206.

山形県 (2019) 平成 30 年度絶滅危惧種保全・外来種防除対策事業 (外来種侵入状況調査) 報告書. 山形県環境エネルギー部みどり自然課, 17 pp.

https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050011/sizenkankyo/gairaiseibutu/h30_araigumahokokusho.pdf (最終閲覧 2020 年 6 月 21 日)

山形県 (2020) 令和 2 年度 (平成 31 年度) 絶滅危惧種保全・外来種防除対策事業 (外来種侵入状況調査) 報告書. 山形県環境エネルギー部みどり自然課, 8pp.

https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050011/sizenkankyo/gairaiseibutu/h31_araigumahokokusho.pdf (最終閲覧 2020 年 6 月 21 日)

山形新聞 (2013) アライグマ庄内になぜ—北米原産鶴岡で死体発見. 山形新聞朝刊 (2013 年 6 月 11 日付) 社会面.